

たん

ほほ



財団法人 日本医療機能評価機構認定病院



医療法人 社団

光仁会 梶川病院 広報誌

●光仁会 梶川病院の理念

『光仁会は 地域の人々の健康と幸せに貢献し、
あわせて働く人達の健康と幸せを追求します。』

●光仁会 梶川病院の基本方針

- ①身近なかかりつけ医療機関として、自院の役割・能力を客観的に把握し、患者さまに親身に、適切に対応します。
- ②専門的な技術・知識について日々研鑽し、患者さまの身になった、安全で確実な医療を追求します。

2021年 冬号



KYTチームのメンバー

特集：転倒転落事故から患者さんを守る！

- 委員会紹介：防災対策委員会
- 南海トラフ地震について
- 光仁会 梶川病院トピックス

特集 転倒転落事故から患者さんを守る!

「高齢者の転倒は多い」ということは皆さんご存じかと思います。転倒・転落の結果、ひどい場合には骨折や頭部外傷などの受傷に至り、それを契機に寝たきりになってしまう方もいらっしゃいます。これは自宅だけに限らず、入院中においても同様です。

当院では入院中にそういった不幸なことが起こらないよう、医療安全対策チーム内の「KYTチーム」を中心に転倒転落防止活動を行っています。今回はその取り組みをご紹介します。

※ KYTとは「危険予知訓練」を指し、Kiken Yochi Training の頭文字をとったもの。

事故や災害を未然に防ぐことを目的に、その作業に潜む危険を予想し指摘しあう訓練であり、様々な業種に取り入れられている。

KYTチームのメンバー

看護師、理学療法士、介護福祉士の
3職種、計5名でチームを構成します。



KYTチームの活動内容

- ① インシデント報告書(医療現場で、事故につながりかねないような、ヒヤリとしたりハッとしたりした出来事に関する報告書)から、実際に起きてしまった転倒転落事例について原因分析、再発防止策の立案、評価
- ② 転倒転落につながるような危険な箇所はないか、院内を巡回確認
- ③ 転倒転落予防のための院内広報活動

■入院患者さん周囲の環境整備についての取り組み

入院患者さんの病室ベッド周囲の環境に着目し、環境を調整します。

1. 転倒につながる物がないか
2. 持った時に動いて不安定な物はないか
3. ゴミ箱や必要な物が手の届くところに設置されているか
4. 必要な時にすぐ呼べるようナースコールが手元にあるか
5. ベッドの高さは適切か
6. 床が濡れていないか など



病室を訪問して確認します

■患者さん自身への注意喚起についての取り組み

患者さん自身の行動が転倒につながることも多くありますので、適切な注意喚起を行います。

1. すぐに脱げてしまうスリッパ等で歩行していないか
2. ズボンの裾が長く、歩行時に踏んで引っかかることはないか
3. 睡眠導入剤等を内服して、夜間ボーッとしている状態で歩行していないか
4. 適切な補助具(1本杖・4点杖・シルバーカー・車椅子等)を使用しているか など

■ハード面(病院設備)についての取り組み

① 低床ベッドの活用

60歳以上の日本人の9割が端座位(たんざい:ベッドの端に足を下ろして座った状態)になった時に、足裏全体が接地できる高さ(座面から床まで)が32cmとされています。

当院では、安全上必要と判断された患者さんに低床ベッドを導入していますが、その高さを25cmまで低くすることができるので、厚さ10cmのマットレスを使用しても、合計35cmの高さにおさえられます。通常ベッドの45cmと比較すると、その低さが分かります。

かかとまでしっかり床面に接地することができるので、姿勢が安定し、次の動作に移行しやすくなります。また、もしも転倒転落した場合でも、座面が低いため身体への衝撃を軽減できるというメリットがあります。



かかとは付く高さなので安定します



② センサーコールの活用

認知症等でナースコールを押すことが難しい方もいらっしゃいます。対策として、床にセンサーマットを敷き、そこを踏むとセンサーが反応するという方法もありますが、「駆けつける時点で既に転倒していた」ということが少なくありません。

そこで新たに「タッチコール」というベッド柵取り付けタイプのセンサーを導入しました。患者さんが起き上がるためにベッド柵をギュッと握った瞬間にナースコールが鳴るので、立ち上がる前に駆けつけることができます。早めの訪室で転倒を未然に防ぐことができます。

③ 「ころやわ」の活用

「ころやわ」とは、「移動時の安定性」と「衝撃吸収力」を両立させた特別な床材で、転んだ時だけ柔らかくなって骨折を防ぐというものです。骨粗鬆症の方、せん妄や認知症で転倒リスクの高い方、神経系疾患や運動器疾患で転倒リスクの高い方に使用されます。

転倒転落を100%防ぐことはできません。「ならば、転倒転落した時の衝撃を少なくして骨折を防ごう」というアプローチの仕方もあり、当院ではこの置床材「ころやわ」を使用しています。



フローリング柄の部分が「ころやわ」です

梶川病院に関わる全ての方の「安全」と「安心」のためには、これら療養環境の工夫に加え、私たち職員が患者さんの危険を感じ取る感性や、先の危険を予測する力などが必要となります。

現状にとどまることなく、より良い「安全」「安心」を提供できるよう、様々なチーム活動をこれからも継続して行っています。



当委員会は、「防災対策」の言葉通り、当院に起こりうる可能性のある様々な災害に対して、防災上必要な対策を検討・立案し、防災訓練などを通じて全職員の防災意識を高める役割を担っています。

■人員構成

病院は多職種が働く職場ですので、委員会の構成員も多岐にわたります。入院、外来、人工透析、通所リハビリテーション、事務などから委員が選ばれ、看護師、臨床工学技士、臨床放射線技師、リハビリ療法士、社会福祉士、介護福祉士、事務職員など、多くの職種が参加しています。

■委員会で検討する災害

「災害」と一言でいいますが、実はその言葉に含まれる範囲はとても広いです。災害対策基本法では災害のことを、「暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火その他の異常な自然現象又は大規模な火事若しくは爆発その他その及ぼす被害の程度においてこれらに類する政令で定める原因により生ずる被害」としています。

上記の内容のうち、当院が位置する広島市西区天満町で発生する可能性が高い災害を委員会で検討していきますが、最近の異常気象や、次の地震発生の切迫性が高まっていると言われる南海トラフ地震などを考慮し、「豪雨、洪水、高潮、地震、津波、火事」などへの対策が重要と判断しています。

■活動内容

直近の主な活動内容です。

1. 深夜における少人数での火災対応方法策定と訓練
2. 災害時の病院内備品確認
3. 洪水時・津波時における避難計画の策定
(梶川病院、通所リハビリテーションなど)
4. 緊急連絡網テストとその結果を反映した新しい連絡網作成
5. 職員の防災に対する基礎知識テスト
6. 職員自主登院基準の検討
7. 災害発生時の初動検討



備品の場所は確認が重要です



基礎知識テストとはいえ簡単ではありません

■終わりに

当院はBCP(Business Continuity Plan:事業継続計画)を作成していますが、まだ机上のプランという印象があります。

患者さんとご家族、さらには職員のために、日々努力して参ります。

南海トラフ地震について

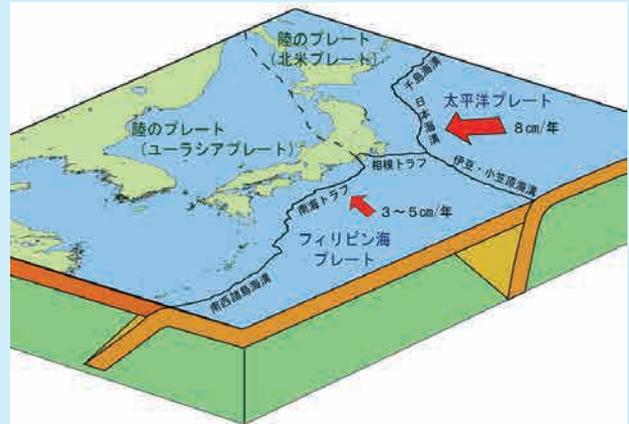
南海トラフ地震について

「南海トラフ地震」という言葉を聞いたことがあるでしょうか？

右図の通り、フィリピン海プレートが少しずつ陸側のプレートの下に潜り込んでいく事によりひずみが蓄積され、陸側プレートがひずみに耐えられなくなって跳ね上がる事によって引き起こされる地震が「南海トラフ地震」です。

この流れが繰り返されるため、南海トラフ地震は概ね100～150年間隔で繰り返し発生しています。

前回の南海トラフ地震(昭和東南海地震(1944年)及び昭和南海地震(1946年))が発生してから70年以上が経過した現在では、次の南海トラフ地震発生の切迫性が高まってきていると言われていることから、何らかの対策を検討しておく必要があると言えます。



日本付近のプレートの模式図(気象庁ホームページより)

広島市が想定した地震の被害イメージ

建物被害

全壊 18,696棟

※「南海トラフ巨大地震」の場合

人的被害

死者 4,592人

※「安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震」の場合

避難者

172,041人

※「南海トラフ巨大地震」の場合

帰宅困難者

78,385人

※震度5弱以上で運行再開されない場合

平成25年に広島市は「広島市の地震被害想定」を発表しており、上記のような被害イメージが掲載されています。

それによると、梶川病院の位置する西区では、震度が5強～6弱、地盤の液状化の危険性が極めて高くなり、津波による浸水も3～4mくらいあるかも知れません。

当院の役割

当院は西区医師会に所属していますので、大きな災害が発生した時には、西区医師会と緊密に連絡を取りながら自院の被害状況を確認し、可能であれば診療の再開に努める必要があります。

また、当院のBCP(事業継続計画)における基本方針は、「①入院患者の生命を守ること、②人命優先で活動すること、③地域において役割に応じた適切な医療を提供すること」と定められています。南海トラフ地震などの大きな災害が発生した場合は、外来を中止して被害状況を確認し、まずは入院患者さんの生命を守るということに注力します。そこから状況が安定してきたら、外来診療を再開し、地域の皆様に適切な医療を提供するという段階を踏む計画となっています。

当院の防災対策は、今後とも見直しを図り、地域の皆様のお役に立てるように、しっかりと整備して参ります。

光仁会 梶川病院トピックス

2021年8月19日 ふれあい看護体験を開催しました

将来看護師を目指している高校生の皆さんに参加いただきましたが、コロナ禍のため例年の半分以下の5名までの参加人数とし、院内ではなく別棟の会議室で開催しました。

実際に看護師のユニフォームに袖を通し、様々な体験に驚きや感動の声が上がっていました。また、他部署にも協力してもらい、リモートで病院見学や質疑応答等を行い、大変好評でした。



参加いただき、ありがとうございました！

2021年9月16日 ひかり保育園の園児さんより敬老の日メッセージをいただきました

ひかり保育園きりん組園児さんより、「おじいちゃん、おばあちゃん、いつまでも元気で長生きしてください」とのメッセージが込められた作品の贈呈を受けました。本来であれば、園児のみなさんから利用者の方々への贈呈授与式を行うべきところなのですが、コロナ緊急事態宣言下でもあり、やむを得ず感染リスクを回避するため、近隣の天満公園にて、拝受させていただきました。



ひかり保育園きりん組園児さんからすみれスタッフへの贈呈の様子

梶川病院通所リハビリテーションすみれのスタッフがお預かりし、敬老の日にご利用の皆様へご披露いたしました。心温まる素敵な作品を贈呈いただきありがとうございました。



感心して眺めながら、会話も弾みました

2021年10月19～21日 感染対策研修を行いました

今年2回目の感染研修では、標準予防策(感染症の有無に関わらず全ての患者のケアに際して普遍的に適用する予防策)の実技を行いました。

エプロン、ゴーグル、キャップ、手袋の着脱手順について、動画を参照しながら実際に体験し、職員全体で理解を深める事ができました。



②ガウンを着用する
委員がモデルとなって動画を作成



外来担当医師紹介



院長
すえまる なおこ
末丸 直子
内科
《外来診察日》
月・木・金曜日



副院長
くめ たかし
久米 隆
泌尿器科
《外来診察日》
月・水(隔週)・木・金曜日



副院長
あさみ よしあき
浅海 良昭
外科・内科
《外来診察日》
月・火・木曜日



ひのい としひで
檜井 俊英
内科・循環器科・禁煙外来
《外来診察日》
火・金・土曜日



くしはた しげゆき
串畑 重行
非常勤 内科・禁煙外来
《外来診察日》
水曜日



ながの よしと
永野 義人
非常勤 神経内科
《外来診察日》
水曜日



はらだ ひとし
原田 仁
非常勤 整形外科
《外来診察日》
月・木曜日



なかはら みつる
中原 満
非常勤 泌尿器科
《外来診察日》
火曜日



かわさき まみ
川崎 真実
非常勤 泌尿器科
《外来診察日》
水曜日(隔週)



すえまる けいじ
末丸 啓二
非常勤 心療内科
《外来診察日》
火曜日



たなか もとき
田中 基樹
非常勤 総合診療科
《外来診察日》
水曜日



ささき けんすけ
佐々木 健介
非常勤 内科(腎臓)
《外来診察日》
金曜日



外来診療 予定表

診療時間

午前 9:00~13:00
・受付は12:30まで
・リハビリ受付は12:00まで

午後 14:00~18:00
・受付は17:30まで
・リハビリ受付は17:00まで

休診日

土曜日午後
日曜日・祝祭日
8月14~16日
12月30日~1月3日

※ 令和3年4月1日現在

		月	火	水	木	金	土
内科	午前	末丸直子 (9時半から)	浅海良昭	串畑重行	末丸直子	末丸直子 佐々木健介 ※腎臓内科	檜井俊英
	午後	浅海良昭	檜井俊英		浅海良昭	檜井俊英	
外科	午前		浅海良昭				
	午後	浅海良昭			浅海良昭		
泌尿器科	午前	久米隆	中原満	久米隆/川崎真実 (週交代)	久米隆	久米隆	広大泌尿器科
	午後	久米隆	中原満	久米隆/川崎真実 (週交代)		久米隆	
神経内科	午前						
	午後			永野義人 (17時まで)			
整形外科	午前	原田仁			原田仁		
	午後	原田仁 (15時から)					
総合診療科	午前						
	午後			田中基樹			
循環器科	午前						檜井俊英
	午後		檜井俊英			檜井俊英	
心療内科	午前						
	午後		末丸啓二				

病院概要

名称	医療法人社団光仁会 梶川病院
所在地	〒733-0022 広島市西区天満町8番7号
電話番号	082-231-1131 (代表)
FAX	082-231-8866 (代表)
URL	http://www.kajikawa.or.jp
開設	1980年5月(昭和55年)
院長	末丸 直子
診療科目	内科・外科・泌尿器科・整形外科・循環器科 肛門科・放射線科・リハビリテーション科 人工透析内科・神経内科・精神科
病床数	88床 (地域包括ケア病棟48床、医療療養病棟40床)
基準	地域包括ケア病棟1 療養病棟入院基本料1(在宅復帰機能強化加算)
併設	通所リハビリテーションすみれ(定員40名)
主な設備	オープンタイプMRI 16列マルチスライスCT 高精度デジタルX線透視装置 等

光仁会 梶川病院は、地域の在宅医療を支える病院です

透析を含む一般内科・外科・泌尿器科を中心とした治療を行っています

個々に応じたリハビリを行い、在宅・社会復帰に向けたきめ細かな支援に力を入れています

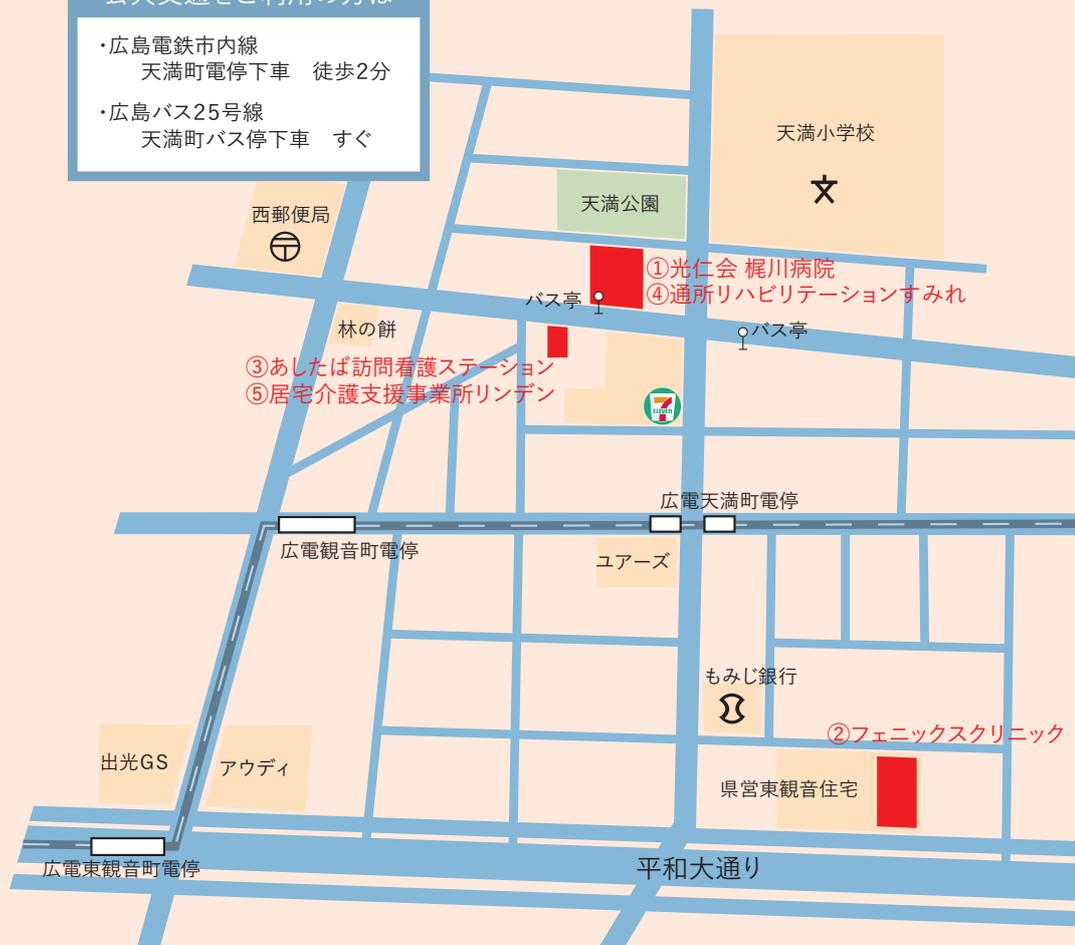
人工透析をされている、もしくは導入予定の方は、退院後も外来透析が可能です(フェニックスクリニックにて実施)

各部署が連携をとりながら情報を共有し、患者さんひとりひとりに合った医療・介護を提供するよう心がけています

周辺案内図

公共交通をご利用の方は

- ・広島電鉄市内線
天満町電停下車 徒歩2分
- ・広島バス25号線
天満町バス停下車 すぐ



光仁会 梶川病院グループ

【広島市域事業所】

- ① 光仁会 梶川病院(入院・外来)
電話:082-231-1131
〒733-0022 広島市西区天満町8-7
- ② フェニックスクリニック(人工透析)
電話:082-293-8400
〒733-0031 広島市西区観音町7-29
- ③ あしたば訪問看護ステーション
電話:082-234-0585
〒733-0022 広島市西区天満町13-19
- ④ 通所リハビリテーションすみれ
電話:082-231-1196
〒733-0022 広島市西区天満町8-7
- ⑤ 居宅介護支援事業所リンデン
電話:082-297-7717
〒733-0022 広島市西区天満町13-19

【廿日市市域事業所】

- 老人保健施設べにまんさくの里
電話:0829-50-0031
〒739-0478 廿日市市大野1320

【庄原市域事業所】

- こぶしの里クリニック
電話:08477-2-5255
老人保健施設こぶしの里
電話:08477-2-5252
〒729-5121 庄原市東城町川東152-4



財団法人 日本医療機能評価機構認定病院

医療法人社団

光仁会 梶川病院

内科/外科/泌尿器科/整形外科/循環器科/肛門科/放射線科/
リハビリテーション科/人工透析内科/神経内科/精神科

発行:医療法人社団光仁会 梶川病院
編集・文責:地域医療連携室

〒733-0022 広島市西区天満町8-7
TEL(082)231-1131(代) FAX(082)-231-8866(代)
http://www.kajikawa.or.jp